


2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

<p>団体名</p>	<p>一般社団法人J-CAPTA</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>子どもまんなかCAP（子どもへの暴力防止）普及プロジェクトin群馬</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体のビジョンは子どもへの暴力のない社会の実現である。すべての子どもたちが、安心して、自分を大切な存在と感じ、権利の主体として行動を選択して生きることのできる社会、子どもの人権を尊重し子どもの持っている力を発揮できるように支え合える地域をめざしている。</p>		<p>8/3子どもまんなかCAP普及プロジェクトinぐんま～いまこそすべての子どもたちにCAPを届けよう～ CAPぐんま発足記念公開「CAPおとなワークショップ」&リレートーク「CAPぐんまを応援する100人メッセージ」の集合写真</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体は日本におけるCAPトレーニングセンターとして2009年に発足した。CAP活動の普及を通して、子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会の実現をめざしている。その目標達成のために、プログラム実践者を養成育成し、プログラム提供活動を行っているCAP実践団体を支援し、また子どもの人権尊重とエンパワメントの広報啓発アクション活動を行う。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●望ましい人的資源：・全道県にCAP実践グループ（当団体正会員）が、児童相談所と同じ分布で実在し、実践グループにはCAPスペシャリスト一人前★（＊1）が5人以上いること。（＊1）CAPが開発したスキルチェック指標より●望ましい物的資源：・広域で活動しているため、情報管理、ファイル共有や会議ができる安全なグループウェアのシステム。●望ましい活動資金：・トレーニング事業は受益者負担で、広報啓発アクション事業は助成事業率を高め、ワークショップ普及促進は助成金寄付金で実施する。●望ましい情報：・人権と暴力防止に関わる団体としての守秘事項遵守を含む運営マニュアル、個人情報管理、団体自己評価の方法、人材育成の仕組み、スタッフやボランティアに必要な行動指針、災害時の危機管理、感染対策ガイドライン、CAP効果データの共有。</p>			
<p>■ 活動報告</p>			<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p>2015年以降CAP（Child Assault Prevention：子どもへの暴力防止）活動実績のない群馬県で、CAP実践を通して子どもへの暴力を防止し子どもの人権を守ることを目指して、以下の事業を行った。 1）群馬県「CAPEデル事業」の実施 ・県内の小学校や幼稚園保育園で、CAP教職員・保護者・子どもワークショップを実施した。 2）「子どもまんなかCAP普及プロジェクトinぐんま」報告会の開催 ・県内の支援者や関係者を招いて、公開CAPおとなワークショップと関係機関によるリレートークを含むCAPぐんま発足記念本助成事業報告会を行った。 3）CAP実践グループ「CAPぐんま」発足支援 ・県内のCAPスペシャリスト（CAPプログラムを実施できる有資格者）でスタートした「CAPぐんま準備会」の定期的なミーティングと練習の場を作り、人材養成と運営支援、ワークショップ実施のためのテクニカルアシスタンスを行い、スキルアップを図った。 ●活動基盤の強化-CAP実践グループの運営に必要な書類やマニュアルの整備</p>			<p>1 群馬県内の小学校1校全20クラス509人と保育園1園5歳児24人の子どもたちに、発達に合わせたCAP子どもワークショップと、子どもワークショップに必要な教職員ワークショップ（各1回計50人）・保護者ワークショップ（各1回計51人）を実施した。 2 「子どもまんなかCAP普及プロジェクトinぐんま」報告会を開催（1回）し、県内のCAP支援者や関係者によるリレートークと参加者によるCAPぐんま応援メッセージの共有を通して連携を推進した。（参加者65人） 3 「CAPぐんま準備会」を発足し、J-CAPTAトレーナーの支援のもとミーティング&練習会53回開催し、ワークショップの場（おとなワークショップ23回子どもワークショップ22回）で実践を重ね、人材養成に取り組んだ。準備会発足から1年で「CAPぐんま」が誕生した。有資格者25人のうち12人がワークショップデビューをした。（※CAPスペシャリストスキル測定基準による半人前1-4人・半人前2-8人、スピーカーデビュー1人。）上記2において、CAPぐんまメンバーのみによるCAPおとなワークショップを実施した。 4 定款や運営に必要なルールの整備を、先行CAPグループから取り寄せ、CAPぐんまメンバーが話し合い、作成した。</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<p>CAPグループを1年間で発足し、ワークショップ実践ができるまでになるための方法を実験し、成功した。 具体的には、 ①意欲がありビジョンを共有できる仲間が複数人いる ②練習&ミーティングするための場所とそのための資金がある ③人材育成の実習現場（ワークショップの場）を用意できる ④伴走する支援者（スキルはトレーナー以上）が複数人必要 ⑤地域で連携する機関や団体との繋がりをもてる これらがすべてそろうことで、持続可能なNPOとしてのCAP実践グループをスタートさせることができる。</p>			<p>本助成事業で達成したCAP実践グループ発足がゴールではなく、これをスタートとして課題に取り組み続けるCAP実践団体として存在し続けていくことこそ重要である。子どもへの暴力被害が包括的に捉え、年齢に合わせた参加型のプログラムを子どもに直接届けるCAPプログラムの強みを活かし、学校-家庭-地域がつながって子どもをまんなかにした安全なコミュニティを構築していくという取り組みを地域で仕組化していきたい。また、安定した財源と人材を確保し続けることも課題である。 以上のことから、あらたな出会いとつながりを広げて、社会の認識を変える運動として常にムーブメントを起こし続けながら、この助成事業をモデルに各地でのグループ発足を支援し、課題に挑み続けていく。</p>	
<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>群馬県にCAP実践グループ誕生！ 533人の子どもたちがCAPワークショップに参加！</p>
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>事業継続発展するために、グループがNPO法人化に向けて動き出した。財源確保のために団体スタートアップ助成金を獲得。さらなるスキルアップを目指して、小学生プログラムに加え、就学前プログラム資格10人、ティーンズプログラム資格5人が取得した。</p>	